



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和 2 年 8 月 2 4 日 NO. 5

ナチュラルガーデンせんりゅう



外国語科における COVID-19 対策と

「指導と評価の一体化」に向けて

師がく指導者 小林 恵子

以前、ある学級で外国語活動の示範授業を行った。数日後、当該学級のインフルエンザによる学級閉鎖の記事が新聞に出ていた。私自身、その夜に 39.6 度の発熱があり、インフルエンザ A 型と診断された。

「私の授業がインフルエンザを拡散したのでは?」という思いにかられた。第 1 にインフルエンザ流行期にありながら、私も児童もマスクをしていなかったこと。第 2 に英語を話しながらカードをやりとりする活動だったにもかかわらず、授業後に手洗いの指示をしなかったこと。予防の意識が希薄だったことを悔やんだ。

新型コロナウイルスも飛沫・接触感染が主な原因だと言われているが、各校の授業を参観すると、発音練習の際に口元を見せるために、教師がマスクを外す場合がある。フェイスシールドの着用を勧めたい。ペアでの会話練習では、相手の声が聞き取りにくいいため、マスクを外して話し始める児童生徒もいる。『リモートインタビュー』(詳細

は師がく受講者に照会)の方が安全で、疑問文の練習量や、児童生徒の答えを学級で共有できる点でも効果的である。カードやワークシートを共用した場合は、授業後の手洗いを確実に指示してほしい。

今年 3 月に国立教育政策研究所から『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校外国語・外国語活動)(中学校外国語)が出された。「聞く」「読む」「話す(発表)」「話す(やりとり)」「書く」の 4 技能・5 領域ごとに「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点から評価材料を揃える必要がある。そして評価の結果を教師の指導の改善につなげることが求められている。

小学校では新学習指導要領に則って、新しく採択された教科書で授業をしながら評価計画を完成してほしい。中学校では完全実施になる来年度に向けて着実に準備願いたい。

巻頭写真に寄せて

柳橋千刈街区公園 —自然の姿を重視—

◇「『ナチュラルガーデンせんりゅう』それは何？何処にあるの？」でしょうか。実はこれは愛称です。正式名称は「柳橋千刈街区公園」と言います。今、見附の公園と言えば「イングリッシュガーデン(2009年6月開園)」が有名ですが、柳橋地区の住宅化が進められていた2004年5月に、英国人ガーデンデザイナーのポール・スミザーさん設計監修で開園した、自然公園です。この公園を初めて訪れると「手入れ感のない、砂利に覆われた花壇」に、少し戸惑いを覚えるかも知れませんが、落ち着いた良い公園です。

◇7月20日、この公園で、見たことのない**巻頭写真**の花を見つけました。それは、葉物野菜のような葉が根元から30cm位まで付いていて、そこから、茎が2m以上も伸び、先端にロケットのような形の花が咲いていました。調べると「ルドベキア マキシム」でした。この花はポール・スミザーさんが好んで使う花だそうです。この公園は「ルドベキア マキシム」をはじめ、原種系の宿根草類を中心に植栽がされ、自然な雰囲気のある庭造りがコンセプトになっています。

◇再度8月中旬に花を見に行くと、周りの黄色い花卉が散り、黒い芯ばかりになっていました。葉は強い日差しに負けないように厚くなり、多肉植物を思わせるものでした。バラや多くの草花が、色鮮やかに咲き誇る庭園は誠に美しいものです。ですが、この「ナチュラルガーデンせんりゅう」も、違う美しさを見せるとともに、心豊かな気持ちにさせてくれる素敵な公園です。残暑の日々が続いています。この公園の東屋風の建物で、静かな時間を送るのも素敵ですよ。非日常の時間を過ごしに出かけてみませんか。



8月「花の部分」



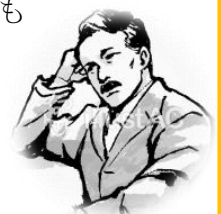
「葉の部分」

コラム =教科書は、わくわくドキドキ 学びの宝庫です=

◇昨年の小学校に続き、今年は中学校教科書の採択年(来年度から使用する教科書を決める)でした。皆さんご存じの通り教科書採択は、採択地域毎に、展示会等で教員や市民の意見を聞いたうえで、各教育委員会の承認を得て、採択地域毎で決定をされます。7月末に決定され、各学校に通知が来ました。当教育センターには、各教科書会社の見本が揃えられています。国語は4社の見本があり、コロナ禍の夏季休暇、私はこの国語の教科書を借りて読みました。

◇どの教科書も、学習指導要領の目標や内容にそって、詩に短歌、小説、説明、評論、さらに古文、漢文、言葉と文法等の教材が、写真や挿絵・イラスト、表などで、実に分かり易く載っています。分かり易いとはいえ、地理が専門の私が、古文や漢文、文法などについて触れるのは無理です。小説についての感想です。当然、学年により作品が違ってきます。中2の小説は、4社とも太宰治の「走れメロス」が取り上げられています。「人物像を捉え、言動について考える」に良い作品なのです。夏目漱石の「坊ちゃん」も2社で、冒頭部を取り上げています。

「人物の行動や人柄に着目する」のに良いのです。私が「わくわくドキドキ」した中2の作品は、重松清「卒業ホームラン」(T書籍)、同じく重松清「タオル」(K出版)。重松清は、思春期の子ども心理を描かせたら最高の作家です。戸森しるこ「セミロングホームルーム」(S省堂)の、困り事を言葉に出来ない子どもは、どこの学級にもいますよね。三浦哲郎「盆土産」(M図書)。この作品の時代背景は、昭和30年代だと思います。少年と同じ頃、子どもだった私だから惹かれるのかもしれませんが、使用教科書の教材研究で精一杯でしょうが、他社の教材でヒントになることも多いですよ。また、小学校の先生が中学校の教科書で学ぶ(その逆も)と、関連性が見えます。教育センターは、自由に貸し出しをしています。ぜひ、各社の教科書で学んでください。(こ)



4時から夢塾 「乳幼児期の愛着の安定した形成を…」

第9回「4時から夢塾」を7月31日(金)、長岡日赤病院の田中篤医師から「メディアの子どもの心身への影響」をテーマに講話を頂きました。

1 メディアの子どもへの影響(何もしないでぼんやりすることが大事)

- ・大切な様々な時間を奪う・家族との団欒・友達との語らいなど。
- ・睡眠時間が大事・睡眠時間の短縮化。ブルーライトの影響も問題。

2 心身へのその他の影響 (睡眠障害の他の影響)

- ・肥満。運動能力の低下。視力の低下, 内斜視。言語発達の障害。社会性発達の障害。仮想現実と現実の混乱。うつ症状の増加等。→「メディア教育」の必要性。

3 乳幼児期に安定した愛着を築けなかった子どもたち

- ・メディアの世界に飲み込まれないためには、愛着形成と自己肯定感が必要である。
- ・スマホの危険性。いつでもどこでも楽しめる21世紀のアヘン。脳神経組織に悪影響を。
- ・LINEは学力を下げる。長時間のアプリ使用は、睡眠・学習時間不足より強い影響がある。

4 子どものメディア依存と心身の健康調査 (見附市・小中学校調査の結果から)

- ・日本小児心身医学会「QTA30」で、子どもの健康度調査を実施した。学校でストレスを感じる。いつも疲れている。イライラする等で、学年が進むほど心身の健康状態は悪化する。

(→相関関係を言っているのだから、因果関係を言っているのではないが、悪化をしている。)

- ・ゲーム障害の頻度は、全体で平均9.2%。学年が進むほどネット依存度が高まる。
- ・就寝時刻が遅いほどネット依存度が高い。(ある程度はいいが、睡眠時間は削らないで。)
- ・幸せである、自分に満足している等の自己効力感の低さと、ネット依存度とは相関する。

5 まとめ I (メディアと子どもについて)

- ・一般の小中学校において、ゲーム依存やネット依存傾向の子どもがかなり存在する。
- ・ゲーム・ネット依存症は小児・成人の精神保健の重大な疾患となっていく可能性が高い。
- ・ネット依存度の高さと心身症状の訴えの多さとは、有意に相関をする。

6 まとめ II (メディア対策に必要なこと)

- ・メディアによる子どもの発達の影響に関する科学的・医学的研究は、必要不可欠である。
- ・ゲーム・ネット依存症にならないために、乳幼児期の安定した愛着の形成が必要不可欠。
- ・メディアの魅力への対抗には、私たち社会・大人に魅力的な人間関係の創造が求められる。



- <参加者の声>** ・見附市のアンケート結果から、ネット依存傾向や睡眠状況を知ることができた。乳幼児期の愛着の安定が必要不可欠である、という言葉に実情を思い知らされた。
- ・不登校の子どものゲームへの執着、睡眠時間が気になっていた。相関関係があると分かった。
 - ・子どもの現状にばかり着目せず、乳幼児期の親子関係に着目することが大事だと思った。
 - ・依存要因そのものにアプローチせず、力まずに「楽しいことにアプローチをしていこう」のスタンスで、家族の形に応じて支えていく方法を、一緒に考えることが大切だと思った。

8月

科学教育部



《今月の1枚》 ピーマンの果実

【9月以降の科学教育部の活動】

2学期には、児童生徒の科学のものづくりや科学研究を発表する場があります。例年通りとはいきませんが、新型コロナウイルス拡大防止対策をした上で実施します。理科主任の先生を中心として申し込みをお願いします。多くの児童生徒の成果を楽しみにしています。

「見附市児童生徒夏休み作品展」 会 場：ネーブルみつけ	9月26日(土)～ 27日(日) 9:30～16:30	児童生徒が、夏休み中に作り上げた科学工作や観察記録、標本などを展示し、広く紹介する場となります。多くの応募をお待ちしています。 ※9月9日 締め切り
「見附市児童生徒科学研究発表会」 会 場：見附市中央公民館	10月2日(金) 14:15～16:20	児童生徒が、身近な自然や日常の事物・現象について研究したことを発表する場です。特に優れた作品を新潟県科学研究発表会(いきいきわくわく科学賞2020)に推薦します。 ※9月9日 締め切り
第3回理科主任会	9月17日(木) 15:00～16:30	「作品展」「科学研究発表会」について打ち合わせをします。今年度の変更点も確認しますのでご参加をお願いします。 ※科学研究発表会要項200部搬入 締め切り
単元別研修会 中2「電流とそのはたらき」	9月10日(木) 15:40～16:40	課題解決学習の設定や実験方法の立案などについて扱います。特に、オームの法則について習得したものを電流による発熱の学習に活用する方法について研修を行います。

科学の公園

学習したことと日常生活をつなげる～季節による変化～

小学校3年生や5年生の学習では、植物の実や種子について観察します。継続的な観察を通して、季節による植物の成長について、児童は多くのことに気づきます。しかし、学習したことを一般化できている児童は多くありません。同じように中学校1年生でも、植物の学習を行ったときに「受粉して種子ができる」と学習しますが、種子を観察する前に単元の学習が終了してしまいます。



「へた」⇒「がく」

「授業で学習したヘチマやアブラナについては理解しているけど・・・。他の植物が問題に出てくるとわからない。」

知識として理解しているだけで、他の植物での体験を含んでいないからこそ一般化されていない状態です。夏休みに1学期の復習をした児童生徒も多く、この夏休み明けが定着のチャンスであり、新たに興味関心を高めたり、考える機会を設けたりするチャンスです。例えば



種子が詰まっている

「トマトやイチゴのへたって何だろう？」

生徒が疑問をもつことがあります。教科書では「へた」という言葉は出てきません。「へた」は一般的にいう「がく」になります。花が果実と種子になったとき、「がく」については触れられていないのです。他にも野菜の中の種子を確認する体験などを行うと、児童生徒たちは生活と関連付けて、考えを広げたりつなげたりしていきます。体験により児童生徒の目が輝きます。

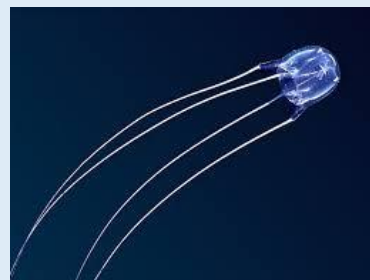
お盆に海に入るな！？

お盆の頃になると「お盆に海に入るな」という話を聞いたことがあるでしょうか。これは以下のような理由があります。

- ・海流の流れが変わりやすいためや、波が高くなりやすいため
- ・水草が増える時期になり、足にからまりやすいため
- ・天候が変わりやすく急な雨や雷になるため（今夏は、多くのゲリラ豪雨が各地で起こりました。）
- ・離岸流が発生しやすいため
- ・クラゲが大量に発生するため

このように、さまざまな理由から「お盆に海に入るな」と言われています。この中から、クラゲに注目してみます。クラゲは基本的には一年中海の中で生活しています。8月頃の少しぬるくなった海は、クラゲが生活するには最適で、大きくなったクラゲが目立ち始めます。この時期にオスとメスが出会い、有性生殖を行います。秋になると卵がかえり、海底へ移動してポリプと呼ばれるイソギンチャクみたいな状態になり、無性生殖で増えていきます。そして、春から、また浮遊して生活をしていくのです。クラゲの生態は不思議なものが多く、有性生殖でも無性生殖でも増えていきます。

クラゲは、みなさん知っているように、毒をもつものも多いです。一見きれいに見えますが、強力な毒で私たちの肌を腫れ上がらせるものもいて、クラゲの怖いところです。これからの時期、海に行く機会があったら要注意です。



毒性の強いアンドンクラゲ